

たけのこしまさ たけ

③⑩ 竹腰正武侯本廟

(関市史跡 関市志津野)

志津野にある経常山正武寺の本堂北西側にある墓地の最も奥に五輪塔が立っています。

竹腰正武は、尾張藩付家老で今尾(現海津市平田町)の領主であった竹腰家の5代当主です。石河家に生まれ、竹腰家の養子となり、尾張藩では4代藩主吉通から4代の間(徳川6代将軍家宣から9代将軍家重)に仕えました。墓誌には「正武寺殿前城州朝散大夫功嚴義忠大居士神祇 当寺開基 宝暦九己卯(1759)年十二月十日」とあり、正武の没年がわかります。

豆知識

五輪塔：五輪とは、地輪、水輪、火輪、風輪、空輪です。それぞれ方、円、三角、半月、宝珠形につくられています。日本では平安時代のなかばごろから死者への供養塔あるいは墓標として用いられました。

【アクセス】 関市自主運行バス わかくさ・富野線「小坂」下車、徒歩約10分
東海環状自動車道・美濃 IC から東へ車で約15分、
富加関 IC から西へ車で約15分



関の文化財探訪

その 17

関の「文化財」を紹介します。

照会先 文化財保護センター ☎46-2313

③⑪ 日竜峯寺宝篋印塔

(岐阜県指定文化財 関市下之保)

本堂の裏にある岩屋の中にまつられています。寺伝によれば、源頼朝の分骨を納めたといわれていますが、塔の形式から室町時代に造られたものと考えられます。非常に硬い花崗岩が使われ、当時の石材加工技術の高さを現在に伝えています。

豆知識

宝篋印塔：基礎の上に方形の塔身、その上に蓋、相輪が置かれています。蓋には数段の階段があり、四隅に馬耳形の突起が設けられるのが特徴です。本来は宝篋印陀羅尼を納めるための塔でしたが、のちにはこの特徴をもつ塔の名称となりました。



【アクセス】 関市自主運行バス・岐阜バス「高沢観音口」下車、徒歩約30分
東海環状自動車道・富加関 IC から
県道58号線を車で約20分